

「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第12回

1. 実施日

令和4年11月5日（土）1、2限

2. 場所

講堂

3. 対象

グローバル科2年生（6・7組）

4. 講師

大阪大学 堀先生、坂尻先生、柿澤先生、T A（大学院生）4名
京都芸術工芸大学 高田先生、学校長、副校長
教諭 中村啓介 三嶋千代子 山中脩平 藤原久美子

5. 内容

ポスター発表

- ・各チームの発表は「7分発表・5分質疑応答・3分移動」の15分1セット
- ・4人1チーム 1セット×4回転とする
（3人・5人チームはチーム内で2回発表する生徒がいる。）

6. 学び

口頭で発表することの難しさを学んだ。また、質疑応答をすることにより、自分たちの研究について新しい視点を持つことができた。最後に堀先生と高田先生からご講評をいただきポスター発表の仕方などの作法面、ポスターの構成などの技術面などについて全体にアドバイスをいただいた。また、発表を楽しむことが大切ということも学んだ。

7. 次回への課題

本時で説明できなかつた内容や、質問に答えられなかつたことについてチームで検討し、研究をまとめる。フィールドワークの計画を新たに立てているチームもある。講師の先生方の評価表には観点別評価の他、「よりよい研究にするための方策」も書いていただいている。それらをもとに研究報告書 Ver. 3、さらには研究論文に反映させていく。

8. 本時の振り返り

昨年度までは、チームの何人かでポスター発表する形態だった。しかし、学年末に

向けて個人論文を執筆することを鑑みて、この中間発表を機に探究の過程を各個人が振り返り、説明できる水準に至ることを目指すため、発表形態を一人で発表する形に変更した。その結果、一人一人がこちらの意図を理解していることが観察でき、チーム内の探究内容理解の平均化がなされた。

筆者らは講師の先生方から、発表会後に「プレゼンテーションソフトを利用した口頭発表とポスター発表は性質が異なる」という助言をいただいた。

学習者が1年生のときは、プレゼンテーションソフトを利用して発表を行った。会場の前に立ち、聴衆に対して発表を行い、質疑応答に答えるというものである。一方、ポスター発表は、発表者自身で聴衆を集め、発表を行い質疑応答に答える。発表の途中で質問に答える場面もあるし、聴衆のリクエストによっては、重点をおいて発表する箇所が変化する。発表者自身で聴衆をファシリテートして発表する必要がある。この1年と2年での発表に求められる技能の指導を明示的にするべきだった。次年度に引き継ぎ改善をする。

学習者間の質疑応答は非常に積極的に行われ、お互いに探究内容理解を深化させるものになっていた。

